

とやま介護テクノロジー普及・推進センターの取組みについて（R7 年度）

【運営方針】

介護サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりの実現、並びに介護に携わる職員が自らの仕事や職場に自信と誇りをもって働けることを目的とし、以下の取組みを実施する。

- I 介護事業所が生産性向上に取り組むための支援体制整備
- II 介護従事者の資質向上機会の確保、専門人材の育成
- III 生産性向上にかかる取組みの普及啓発、すそ野の拡大

I 介護事業所が生産性向上に取り組むための支援体制整備

介護事業所の生産性向上にかかる取組みを支援するため、機器等の導入にかかる経費の補助や、相談対応、伴走支援、機器等の試用貸出など、支援体制を整備

① 生産性向上の取組み等に関する相談窓口の設置

- ・ 介護事業所からの生産性向上の取組み等に関する相談対応
- ・ 企業からの介護ロボット等開発に関する相談対応
- ・ 一般県民からの日常生活での介護に関する相談対応
- ・ 人材確保、経営等に関する相談の関係機関への接続

② 介護ロボット等の体験展示

「とやま介護テクノロジー普及・推進センター」内に展示するほか、外部イベントへの出張展示、定期的な体験展示会の実施

③ 介護ロボット等の試用貸出

機器の導入前に試用貸出を希望する施設等と貸出企業のマッチングを実施

④ 介護テクノロジー定着支援事業

機器等の導入経費を一部補助し、職場環境整備を促進する

- ・ 介護テクノロジー導入支援事業
- ・ 介護テクノロジーのパッケージ型導入支援事業

⑤ 伴走支援

- ・ アドバイザーが介護ロボット等の導入検討施設に出向き、課題の洗い出しから介護ロボット等の選定・活用方法など一連の手法について助言を実施

Ⅱ 介護従事者の資質向上機会の確保、専門人材の育成

介護テクノロジーの効果的な活用方法や機器を活用した介護技術の習得を目的とした研修を開催

併せて、介護テクノロジーの活用に係る専門人材の育成を図る

① 介護現場における生産性向上促進シリーズ研修

a) 介護ロボット等導入シリーズ研修

介護ロボットの基礎知識・導入から選定・評価等までの一連の手法を習得
(30名×1回(6日間コース))

b) ICT等活用支援研修

すでに導入している福祉施設からの好事例を通して、ICT導入の基礎的なポイントを学び、今後の活用につなげる(30名×1回)

c) 介護生産性向上取組支援セミナー

県内先進事業所等による生産性向上に関する説明会を開催

② 介護技術実践サポート研修

介護ロボットや福祉用具等を適切に活用した介護方法を分野別に習得

a) 新任職員介護技術サポート研修(各コース30名×2回):

①口腔ケア ②嚥下・食事 ③移乗 ④排泄

b) 新任職員指導者技術向上研修(各コース30名):

①排泄編 ②排泄技術編

③ 腰痛予防推進研修

負担の少ない介護の習得、腰痛予防意識の定着及び職場環境の改善

a) 腰痛予防研修(30名×2回)

b) 腰痛予防指導者育成研修(基礎編・フォローアップ編(各40名×1回))

c) リフトリーダー研修(30名×2回)

④ 介護テクノロジー相談員養成研修

介護現場で必要な介護テクノロジー(介護ロボット、ICT機器、福祉用具)の選定及び評価に係る知識や手法の習得により、専門人材を育成
(30名×1回(9日間コース))

⑤ 地域における生産性向上体感セミナー

県内4地区において、先進事業所による取組紹介や施設見学、参加者同士の意見交換等を実施

Ⅲ 生産性向上にかかる取組みの普及啓発、すそ野の拡大

県内全域で生産性向上にかかる取組みを普及し、すそ野の拡大を図る

① 介護ロボット等体験講座

介護現場で実際に使用する介護ロボット等を体験する講座を開催

- a) 介護ロボット等体験講座Ⅰ：一般県民、小中高生向け（16名×10回）
- b) 介護ロボット等体験講座Ⅱ：介護福祉士養成校学生、職員、専門職向け（16名×15回）

② 介護事業所の表彰

高齢者の自立支援や雇用環境の改善に積極的に取り組む県内の介護事業所等を表彰するとともに、その取組みの普及啓発を図り、介護サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりにつなげる

③ 普及啓発・広報

HP や SNS での情報発信、福祉とやま・VITA による情報提供

【センター人員体制】

- ・ 常勤職員
6名（所長1名、所長代理1名、主事2名、相談員1名、嘱託1名）
- ・ 非常勤職員
2名（伴走支援アドバイザー1名、介護テクノロジーアドバイザー1名）
- ・ 介護ロボット等相談員（非常勤職員）
登録者12名